

# 食育メッセージ

平成29年2月発行 あま市立学校給食センター

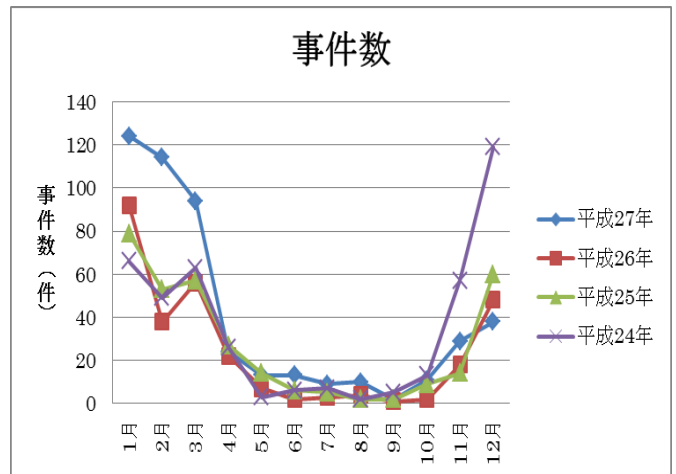


## ノロウイルスによる 感染性胃腸炎



感染性胃腸炎とは、細菌、ウイルス、寄生虫などによって引き起こされる胃腸炎のことです。このうちウイルス性の感染性胃腸炎は、ノロウイルス、ロタウイルスによるものが多く、ほかにアデノウイルス、アストロウイルス、サポウイルスなどによるものがあります。

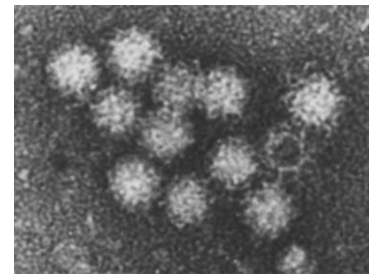
昨年末のニュースでも、新型ノロウイルスが大きく取り上げられましたが、ノロウイルスは毎年11月頃から翌年の4月にかけて集団感染事例が多く報告されています。人から人へ感染する場合と、食品から感染する場合があります。また、**感染力が非常に強く、少量のウイルスでも感染しますので、学校・福祉施設・保育園など、集団生活の場では集団感染に注意が必要です。**



【ノロウイルスを病因物質とする食中毒月別発生状況】

## ノロウイルスとは

ノロウイルスは胃酸の中でも生き延び、アルコールや逆性石けん（塩化ベンザルコニウム等）などの薬剤にも抵抗力があります。有効なのは、加熱による消毒（中心部が85～90℃で90秒間以上の加熱）、塩素による消毒です。また、他のウイルスと比べて、環境中や食品中で比較的長く存在することができますが、食品中では増殖することはありません。増殖するのは人間の腸管の中のみです。



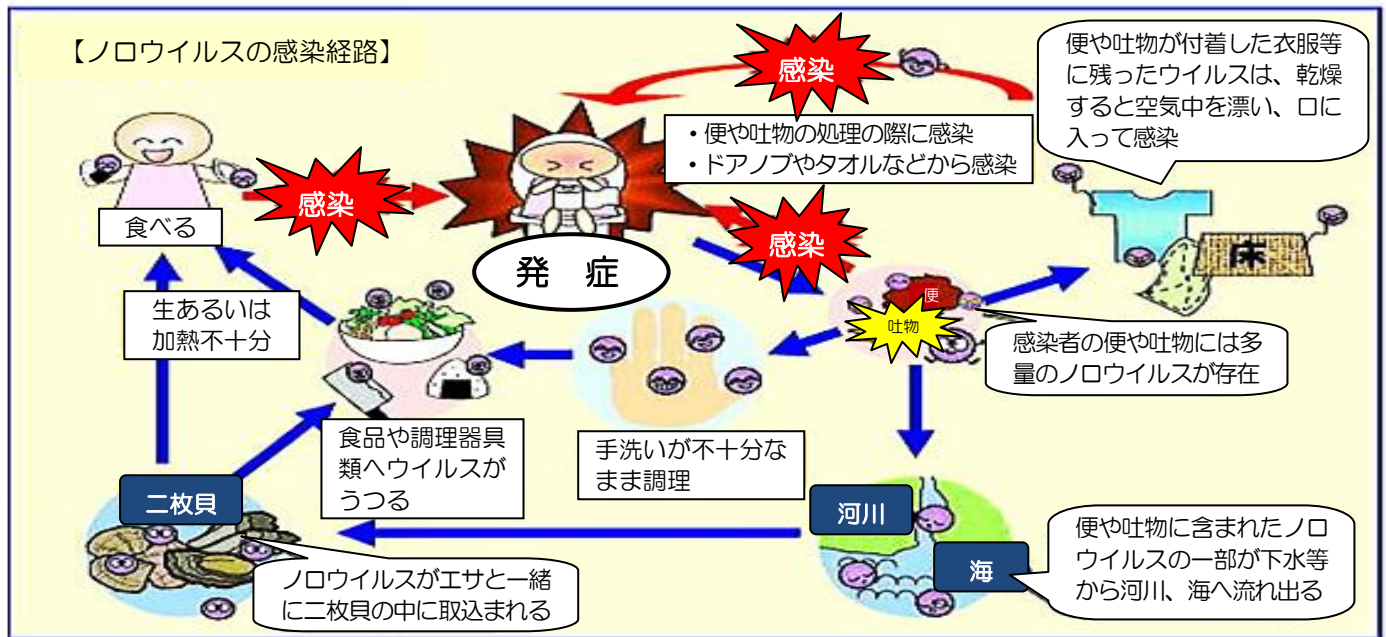
【ノロウイルスの電子顕微鏡写真】

ノロウイルスの感染力は非常に強く、わずか10～100個のウイルスでも感染することがあるといわれています。このようなノロウイルスの薬剤や環境中での抵抗力の強さ、人への感染力の強さに加え、感染経路の多様性が、予防対策を困難なものにしています。

## 特徴と症状

- 潜伏期間は1～2日
- 下痢と嘔吐が主な症状
- 腹痛、発熱、吐き気、頭痛など。（発熱はあまり高くないこと（38℃以下）が一般的）  
（小児では嘔吐が多く、成人では下痢が多いことも特徴）
- ※ 一般的には数日で軽快し後遺症もありませんが、免疫力が弱い乳幼児や高齢者は脱水症状を起こして重症化する場合がありますので注意が必要です。
- ※ 感染しても発病せずウイルスを保有している人もいます。

# 感染経路



感染経路はほとんどが経口感染で次のような場合があると考えられています。

- ☆ 患者のふん便や吐物から二次感染した場合
- ☆ 加熱不十分の二枚貝を喫食した場合
- ☆ 調理従事者などを介して二次汚染した食品を喫食した場合



## 美和学校給食センターからのお願い

- ◇ ノロウイルスによる食中毒の一番の予防法は石けん・流水による十分な手洗いです。配膳前・喫食前には十分な手洗いを行うよう指導をお願いします。
- ◇ 給食当番の児童生徒に下痢や嘔吐などの症状があった場合や、前日体調が悪く、回復して登校される場合などは当番を交代してください。
- ◇ 学校で多数の児童生徒が嘔吐した時や、下痢・嘔吐での休みが多いクラスがある時など集団感染が疑われることがありましたら、早急に給食センターへ連絡してください。
- ◇ 給食センターに、絶対、嘔吐物を返却しないようにしてください。  
(嘔吐物や・嘔吐物が付着した残さいは、学校でビニール袋に入れ密封して処分してください。処理をするときは、必ず使い捨て手袋・マスクを着用してください。)
- ◇ 消毒済みの食器類は、絶対にそのまま配膳室へ入れないでください。
  - ① 食器の嘔吐物を拭き取り、1000ppの濃度の塩素水で消毒した後、ビニール袋に入れ、口をしっかりと密閉してから、清潔なビニール袋で2重におおってください。
  - ② 配膳員さんへ必ず手渡ししてください。

受配校への感染の拡大を防ぐため  
ご協力よろしくお願ひいたします。

